

---

巻頭言

## モーリス・ラベルと条件づけ



玉川大学 脳科学研究所長  
坂上 雅道

九州の田舎で高校まで育ちました。友達の家も遠く、お店も近くに駄菓子屋が1軒だけ。毎日退屈で、家にあるガラクタでゲームを作り、一人で遊んでいました。唯一の文明人らしき趣味はクラシック音楽で、小学校のころから田舎の青少年オーケストラでバイオリンを弾いていました。大きくなったら、地方公務員か学校の先生あるいは医者になることぐらいしか想像できず、入院してきれいな看護師さんに優しくしてもらったのをきっかけに、将来は医者になろうかな、となんとなく思っていました。

高校も2年生までは、理系コースにいました。そんな中、フランス音楽に出会います。特に、モーリス・ラベルの音楽には、恋に落ちたかのように魅かれました。なんて美しいメロディーに和音なのだろうと来る日も来る日も毎日聞いていました。日本の中でも“文化不毛の地(青少年オーケストラのパンフレットより)”と呼ばれるこの田舎を出たことない少年が、なぜヨーロッパのフランスの音楽をこんなに好きになるのだろうか？ 単純な私は、そのことをとても知りたくなり、そのためにはフランス音楽が成立してくる中世の歴史を学ばなくてははいけない、と思い、次の日学校に行き、文学部進学コースに変えてもらいました。

めでたく、大学の文学部進学コースに入学することが出来ましたが、まわりは語学ができる人ばかり、読んでいる本の量も半端ない。おまけに最初のフランス語のテストは落第点。こりゃあ歴史の勉強をしてその道を究めるのはとても無理、と思って他を探すと、実験したら卒業できる心理学というのがあると聞き、何も知らずに心理学科に入学してしまいました。そこで出会ったのが、“条件づけ”。古典的 condition とオペラント型 condition づけで、私たちは学習し、環境への適応を果たしていると聞き、単純な私はまた感動しました。

私たちの学習は、確かに条件づけですべて説明できる。人間の心も条件づけで説明できるぞ、と1930年代の心理学者のようなことを考えました。みんな条件づけの結果のような気がして、世の中の見え方がガラッと変わったような気がしました。心理学を専攻して良かった、と心から思いました。

その後、私たちの脳は、条件づけを超える能力をもっている、ということの研究する研究者になるわけですが、日本人の私がなぜ民謡よりラベルが好きなのか、という問題も心の片隅にいまだに仕舞ってあり、時々考えてはみますが、条件づけでもモデルベース機能でも説明は難しそうです。